

平成 25 年度国立水俣病総合研究センター特別報告

「水銀に関する水俣条約」への対応について

平成 25 年 10 月 9 日～11 日に熊本市、水俣市において「水銀に関する水俣条約」が採択された。

水俣条約は、2002 年に出された国連環境計画（UNEP）世界水銀アセスメントを踏まえて、数度にわたる政府間協議を経て採択・署名されたもので、前文に「水俣病の教訓として、水銀汚染による人の健康及び環境への深刻な影響、水銀の適切な管理の確保の必要性及び同様の公害の再発防止」が日本の提案により記載されている外、「水銀の供給・貿易に関すること」「水銀の利用に関すること」「水銀の環境への排出・放出に関すること」「水銀の暫定的保管・廃棄物・汚染サイトに関すること」「資金・技術支援に関すること等」について、全 35 条の条文と 5 つの附属書から構成されており、平成 26 年 5 月末現在 98 ヶ国が署名し、今後 50 ヶ国以上の批准を得て発効されるものである。



▲石原環境大臣による署名

び同様の公害の再発防止」が日本の提案により記載されている外、「水銀の供給・貿易に関すること」「水銀の利用に関すること」「水銀の環境への排出・放出に関すること」「水銀の暫定的保管・廃棄物・汚染サイトに関すること」「資金・技術支援に関すること等」について、全 35 条の条文と 5 つの附属書から構成されており、平成 26 年 5 月末現在 98 ヶ国が署名し、今後 50 ヶ国以上の批准を得て発効されるものである。



▲議長を務めた石原環境大臣

水俣条約会議において、石原伸晃環境大臣から世界の水銀による健康被害を防ぐために、日本として取り組む「MOYAI イニシアティブ」が表明され、資金や技術の支援、技術開発と共有や環境再生モデルの観点から日本が取り組んでいくことが示された。国立水俣病総合研究センターは、「MOYAI イニシアティブ」の中で、技術開発と共有に関する拠点研究所として位置付けられている。

日本政府が世界に公約した取り組み ～MOYAIイニシアティブ～

途上国の取組を後押し		水俣発の発信・交流	
資金の支援 ・使用排出実態の把握 例) 排出インベントリー マテリアルフロー ・水銀を適正に管理する 法規制の整備 ・水銀の測定や管理の ための人材育成	技術の支援 ・水銀対策技術の途 上国での実現可能性 を調査等 ・我が国の優れた技 術を国際展開 例) 製品中の水銀を 削減する技術 水銀回収・リサイクル 技術	技術開発と共有 ・国水研で簡便な水 銀計測技術を開発し、 各国に提供 ・最新の知見、技術を 共有するための国際 的なシンポジウムを 水俣で開催	環境再生モデル ・胎児性患者等の生活 の支援など ・地域の特色を取り 戻す「もやい直し」 ・環境をこころにした足 跡強い経済・心豊かな 地域社会の構築 例) バイオマス発電 不知火海の観光
水俣条約の早期発効に向けた協力		公害防止・環境再生を世界に発信	
<h3>経済と環境の「もやい直し」を実現</h3>			
※「もやい」とは、船と船をつなぎとめるもやい網や農村での共同作業のこと。「もやい直し」は、対症や共同による水俣の地域再生の取組。			

国立水俣病総合研究センターでは、センターの中期目標で示す国際貢献に関連する業務と位置づけ、水俣条約会議全般に関して積極的に関与し、①条約会議の成功 ②国立水俣病総合研究センターの存在を感じて頂けるよう、全職員が多角的に取り組んだ。

①水俣条約会議水俣訪問プログラムへの対応

平成 25 年 10 月 9 日に、約 140 ヶ国、800 名の各国関係者が水俣市を訪れ、水俣病に関連する周辺施設の訪問、水俣病慰霊碑への献花や植樹、開会記念式典、歓迎レセプションが挙行され、国立水俣病総合研究センター職員が環境本省、熊本県、水俣市等と連携し企画、運営、案内等を担当した。



▲シュタイナーUNEP 事務局長、石原環境大臣他 VIP による水俣病慰霊碑への献花



▲記 念 植 樹



▲植樹記念プレートを囲んで

②WHO主催パネルディスカッション（閣僚級）

10 月 11 日に水俣条約会議のサイドイベントとして熊本本会議場にて開催されたWHO主催パネルディスカッション（閣僚級）に野田広所長がパネリストとして参加し、人の健康影響の観点から水俣条約の関連規定や水銀健康被害等について議論した。



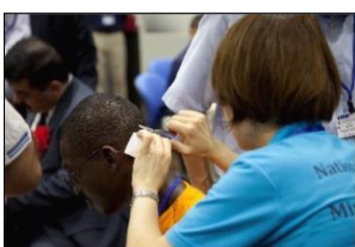
▲閣僚級パネルディスカッション



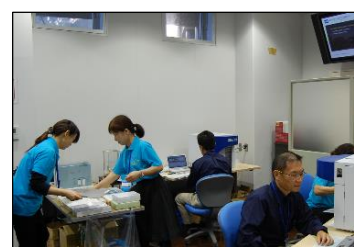
▲野田所長による発表

③水俣条約会議水俣訪問プログラム会議参加者への毛髪測定

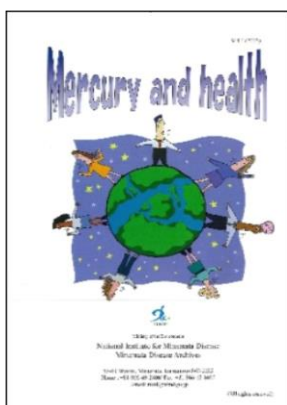
水俣訪問プログラムの各国参加者に対して、体内の水銀含有量を計測する毛髪水銀分析を行い、その結果を熊本市の本会議場において、事前に作成した水銀と健康に関するリーフレット英訳版と共に配布した。



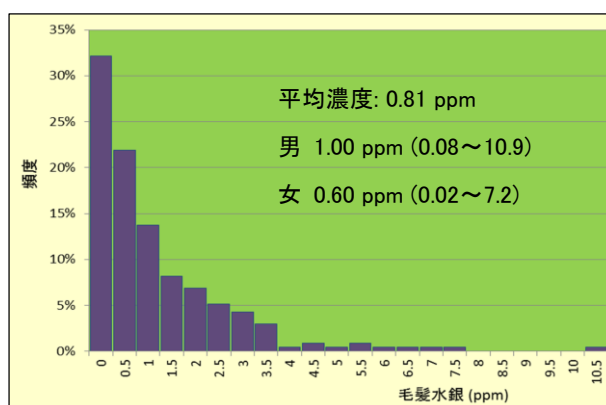
▲水俣病情報センターにおける国水研職員による毛髪採取



▲毛髪水銀分析測定



▲「水銀と健康」英語版リーフレット



▲92ヶ国 233名の測定希望者の毛髪水銀濃度分布

④水俣病情報センターにおける特別展示

国立水俣病総合研究センターがこれまで取り組んできた諸外国での水銀に関する調査・研究を取りまとめて展示するとともに、説明者を配置し的確な情報発信を行った。



▲特別展示について説明する国水研研究者



▲特別展示パネル

⑤熊本本会議場における国立水俣病総合研究センター ブース出展

10月10日熊本市の本会議場前の展示コーナーにおいて、国立水俣病総合研究センターの調査・研究について説明を行うとともに、毛髪分析の結果を配布し情報発信を行った。



▲水俣訪問プログラムにおける測定希望者の毛髪の水銀分析結果



▲熊本本会議場国水研ブースにて

⑥SETAC※・熊本県立大学と連携した「最新の水銀汚染マネジメントに関するシンポジウム」の開催

10月6日に水俣条約会議のサイドイベントとして熊本県立大学にて一般市民向けに水銀の環境汚染の現状と生態影響、ヒト曝露影響、最新水銀管理手法に関する科学的知見を集約したシンポジウムを開催し、当センターの調査・研究についての情報発信を行った。

※Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC) 「環境毒性・環境化学に関する国際学会」